



会津放射能情報センターNEWS

28号

〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36

TEL & FAX : 0242-23-9401

メール : info@aizu-center.org ホームページ : <http://aizu-center.org>

公式ブログサイト : <http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/>

Face book : 「会津放射能情報センター」で検索

2019年5月31日発行

「ひとつぶ」 ジン(ZINE)～自由表現ワークショップ～を開催

4月29日



中高生を対象にジン(ZINE)作りワークショップをセンターで企画しました。「ZINE」は、「magazine」を短くしたもので、個人が作る小冊子・同人誌を意味します。内容と形が自由なため、模様や形しか貼られていないものもあれば、マニュアル、日記、詩集、趣味の紹介、レシピ、漫画、落書き、写真集、情報まとめなど、様々な種類があります。このように自由を強調する媒体を通して、中高生たちが自分たちのための表

現を実感できるスペースを作りたいと思いました。出来上がったジンから、一人一人が持っている世界が見えてきて、胸がいっぱいになりました。ワークショップが終わった後もしばらくセンターに残り、好きな映画や音楽、最近考えていること、これから一緒にできることの工夫を共有しながら時間を過ごしました。小さい形でも、自分の表現や考へで何かが変わることを実感できるような空間を作り続けたいと思います。そして世代を問わず、表現を大事にし続けることでどのような世界観が見えてくるのか、どのような話し合いができるようになるのか、様々なつながり方や可能性を楽しみにしています。

(トミー・バーケット)



センターを研究拠点として滞在していた大学院生のトミー・バーケットさんと佐久川恵美さんが企画。4名の中高校生が参加しました。



センター訪問者とともに…

『市民放射能測定所は何を教えてくれるか?』 2018年12月1日



福島ツアー 4月27日

福島第一原発事故後にできた「市民放射能測定所」について研究するヨーク・ケーネンスさんがセンターを再訪さるのに合わせ研究報告会を開きました。ヨーロッパでは、市民のための科学という目的性をもった「市民科学」が広く浸透し、会津放射能情報センターのような「市民放射能測定所」や SAFECAST の働きも立派な「市民科学」だと言われたことが印象的でした。



ヨーク・ケーネンスさん
ベルギー出身、オランダ、ルーヴェン大学社会科学博士課程

兵庫県西宮市・甲東教会「福島

ツアー」4名のみなさんと飯館村で農家を営む伊藤延由さんを訪問。帰還政策に励む同村内にも高線量スポットが多数あり、原発事故の影響を肌で感じました。

2011年3月、東京電力福島第一原子力発電所核事故が起きた後、文部科学省はリアルタイム線量測定システム、通称モニタリングポスト(以下MP)約3000台を福島県内の学校や幼稚園、保育園、公園などに設置しました。存在してはならないはずの人工放射性物質が存在する環境で生きることになった子ども達。その子ども達が生活する空間の放射線量を測定し、誰でもいつでも確認できるようにするためにです。

ところが、昨年3月20日、原子力規制委員会は除染が進んだことで空間線量は低く安定している。機械の耐久年数も近づいているとの理由でMP3000台のうち2400台を、2021年3月をもって撤去する方針を発表しました。直ぐさま私たちは「モニタリングポストの継続配置を求める市民の会」を立ち上げ、日々の空間線量を唯一目視で確認できるMPは私たちの「知る権利」を保障するものであり、それを撤去するかどうかの「決定する権利」は、無用な被ばくを強いられた中で生活している私たちにあるとして、第1回規制庁交渉に臨みました。そして明らかになったのは本当の撤去理由です。それは、2021年3月をもって復興庁が終了する。よって、MP維持費用6億円も終了すること。つまりは予算の終わりが子どもの生活空間からMPを撤去する理由だったのです。

余りにも無責任な規制庁の方針に全県で怒りの声が湧き上がり、県内各地で市民が動き出しました。特に母親たちが赤ちゃんを背負い幼い子の手を引いて、自治体の首長に面会し、議会に継続配置を求める陳情を起こしました。6月から県内18箇所で規制庁が開催した住民説明会全ての会場で継続を求める声があがりました。

毎朝幼稚園に子どもを連れて行くときに必ずMPの数値を確認している。廃炉作業は始まったばかり。今後何が起きるか分からない。2011年の事故では政府も県も何も知らせてくれなかった。だから次の不測の事態が起きたときには自分で数値の変化を見て、避難を決めたいと親達は訴えました。教育者は原発事故が起きてしまった以上は、子ども達が自ら判断することを学ぶために、MPは必要だと言いました。お爺ちゃんお婆ちゃん世代は、国策によって起きた原発事故なのだから、廃炉まで責任を持って子どもや県民の命を守れと規制庁担当者を説得しました。

住民の怒りと切実な訴えが、撤去の対象になっている自治体の8割近く市町村に撤去反対の意志を表明させました。そして、規制庁は、MP維持費としてこれまで通りの6億円を2019年度予算として確保することになりました。もし住民の訴えや行動がなかつたら、予算は削られ、MPの撤去は進んでいたことでしょう。

その一方で、7月20日の第2回交渉で、私たちは規制庁の驚くべき言葉を聞きました。撤去を大前提に話をする規制庁担当者と噛み合わないやり取りが続いた時、担当者は「今後、不測の事態など何も起きないとは言えない」と発言。私たちは「だからこそ自分で避難するかしないかを判断するために目視できるMPが必要なのだと」反論しました。その時、彼らはこのように言いました。「再び不測の事態が起きた時には勝手にMPを見に行かないでください。それを見に行くだけで無用な被ばくをしますから。東日本大震災では情報がなかつたため、避難する必要がない人までもが勝手に避難した。次に何かあったときのために、現在、福島県と県民のみなさんに正確な情報を出すシステムを作っているところです。だから、今度こそは指示が出るまで屋内退避をしてください。勝手に逃げないでください。」

原発事故が発生した場合、唯一の被ばく防護策は安定ヨウ素剤を服用し、できるだけ事故現場から遠くに避難すること。しかし規制委員会がそれとは真逆の、その場に留まれとの指示を検討していることに私たちは衝撃を受けました。

さらに衝撃は続きました。9月26日、原子力規制委員会は東海第二原発の再稼働に向けて合格を出しました。半径30キロ圏内に住む住民約96万人の避難計画も定まっていないのに…です。そして、10月17日、更田豊志原子力規制委員長は原子力発電所周辺の自治体が事故に備えて定める住民避難計画について、事故発生から1週間で住民が被ばくする線量を100mSv(ミリシーベルト)以内に抑えることを目安にしたと発表しました。これは、何を意図しているのでしょうか。私は1週間の被ばく線量が100mSv以内であれば、避難の必要はないと説明していると理解しています。この国の法律で定められている一般公衆被ばく限度量は年1mSvです。安全を担保しているのではなく、被ばくの我慢量です。それが1週間で100年分に相当する被ばく量を超なければ、避難しなくても良いとこの国は言い始めました。8年前、放射能が降り注いだとき、誰も被ばくしないで上手に避難することはできない

現実を経験しました。緊急時に国は民を守らないことも経験しました。一度原発事故が起きたら、国も電力会社も原子力規制委員会も、住民を安全に避難させることはできないのです。これが福島原発事故の真実であり、教訓だったはずです。しかし、この国は不測の事態が起きてても避難は必要ないと言い始めた…。これは不可能な住民避難を、まるでする必要がないかのようなすり替えです。「原発事故は起きないと言っていた安全神話」が、今や「原発事故は起きてても大丈夫との安心神話」になっていく。原発事故の被害を、次々と住民や国民の目から見えなくし、まるで核事故は収束したかのような雰囲気を作っていく。これが今、福島県で起きていることです。そして、これこそ原発再稼働への地固めになっていくのです。

足を踏み入れてはならなかった核の領域に入り込んだ人間は、その欲と傲慢さ故に原子力爆弾、核兵器、そして原子力発電所を作りました。そしてその結末がこの広島原爆ドームであり、東京電力福島第一原子力発電所なのです。

放射能汚染が広がり命を脅かすような世界を、私たちは次世代に残していくことになってしまいました。子ども達、若者達に心から謝罪します。ほんとうにごめんなさい。そして、お願ひがあります。この時代と共に生き抜くために、知恵を出し合い、共に行動するパートナーになってほしいのです。そのお願ひを若者たちに受け入れてもらうために、私たち大人には何を選び、何を残していくのかの決断が迫られています。

いのちに誠実に謙虚に向き合おうとしないこの国の権力者たちに、一日でも早く退陣してもらおうではありませんか！避難先で無念の涙を流し、絶望の中亡くなった人々のいのちと尊厳を、再稼働という愚かな選択で、何度も何度も踏みにじろうとしているこの国の政治を司る者たちに、一刻も早く政治の場から立ち去ってもらおうではありませんか！

今日ここで、明日自分が居る場所で、人々と言葉を交わし声を上げ続けることで、いのちが尊ばれる社会に近づいていく…。その希望を私たちのこの手で獲得し、顔を上げてこれからも進んでいきましょう。

福島の現状報告会のお知らせ

「そこにいのちがあるから 福島からのメッセージ」

会津放射能情報センター代表 片岡輝美

日時：7月21日(日) 午後3時～5時

会場：日本キリスト教団 神戸教会

神戸市中央区花隈町9-16 078(341)2598

入場無料・申込不要

問い合わせ先：神戸教会、会津放射能情報センター

主催：会津放射能情報センター



3月11日、広島原爆ドーム前で片岡代表がアピール

会員募集と年会費納入に関するお願ひ

これまでのお支えに深く感謝いたします。

会費や協賛金のご送金は、なるべく「ゆうちょ銀行払込取扱票」をご利用ください。

納付状況などご不明の点があればセンターまでお問い合わせください。

また払込取扱票をご入用の方はご連絡ください。

○年会費 個人:3000円 団体:5000円

○振込先のご案内

<ゆうちょ銀行口座>

記号 02270-2 番号 116030

振込先名:会津放射能情報センター

<他銀行からゆうちょ口座への送金場合>

店名:二二九 店番:229

預金種目:当座預金 口座番号:0116030

■1月

- 09日 第13回MPの継続配置を求める市民の会運営会議
 11日 報告：東洋英和女学院高等部70名 片岡輝美
 17日 山崎知行医師しやべり場5名 個別相談1名
 17日 センター役員会
 19日 東電刑事裁判会津地域報告会30名
 23日 第14回MPの継続配置を求める市民の会運営会議
 24日 報告：平和をつくり出す宗教者ネット40名 片岡輝美

■2月

- 10日 報告：百人町教会20名 片岡輝美
 14日 センター役員会
 16日 小林恒司医師しやべり場6名 個別相談2名
 16日 ドキュメンタリー映画「福島 生きものの記録」上映会18名
 17日 報告：エネルギー・原子力教育研究会・東京20名 片岡輝美
 20日 第18回子ども脱被ばく裁判
 21日 MPの継続配置を求める市民の会・会津若松報告＆お茶会20名
 取材：パルシステム東京
 22日 第15回MPの継続配置を求める市民の会運営会議

■3月

- 01日 報告：生活クラブ埼玉50名 片岡輝美
 02日 東洋英和女学院小学部 オルガンコンサート招待
 07日 報告：生活クラブ京都エル・コープ 片岡輝美
 09日 報告：愛知西地区「東日本大震災被災者被災教会を覚えての祈りの集い」30名 片岡輝美
 10日 報告：広島流川教会50名 片岡輝美
 11日 報告：「フクシマを忘れない！さようなら原発ヒロシマ集会」200名原爆ドーム前アピール＆デモ行進 片岡輝美
 13日 センター役員会
 15日～16日 山崎知行医師しやべり場10名 個別相談3名
 16日 第4回一泊お泊まり会 おとな14名 子ども10名
 17日 アロマ教室 9名

■4月

- 05日 報告：生活クラブ生協・茨城 40名 片岡輝美
 11日 センター役員会
 13日 小林恒司医師しやべり場8名 個別相談2名
 24日 原発事故被害者の救済を求める全国運動署名提出集会
 26日～28日 来館：甲東教会5名
 29日 中高生対象・ワークショップ「ZINE」を作ろう
 トニー・バーケットさん 佐久川恵美さん

■感謝報告（2018年12月～2019年4月）■

いつも当センターをお支えください、ありがとうございます。お支えくださった方々のお名前を、敬称略で記載いたします。特記なき教会は日本基督教団です。万が一、記載落としがありましたらご連絡ください。

■個人

大関由佳里 上地武 蓮尾公子 田村修子 北村芳子 ジエフ・メンセセイーク 本多香織 小野洋子 飯沼一元 大木正人 松木弥栄子 梅崎浩二 田中直子 トミー・パークett 山口和枝 長坂恭子 加藤ひろ子 森明喜之 森純江 西岡裕芳 山下光 鳴澤美紀 東昌子 安倍愛子 韓あい 菅野美智子 佐藤彰子 鈴木正昭 岩橋幹也 中村光一 泉俊行 高橋力 小寺秀一 目黒けいこ タカハシヒロ 小林順子 藤吉求理子 坂本恭子 石橋宗明 山崎知行 岩本淳子 山田啓子 高杉勝美 普天間ともえ 菅野順子 北野直子 斎藤久美

■団体

八王子原発0の会 下ノ橋教会 仙台北三番丁教会 横浜地区婦人委員会 東梅田教会 浦和友の会 はっぴーあいらんどネットワーキング勝田台教会 南山教会 日本ルーテル教団関東地区女性の会 武藏豊岡教会 水口教会 甲南同胞幼稚園 平塚中原教会 みどり保育園 県南・大分ブロック研修会 春日東教会子どもの礼拝 桑名教会マナの会 東洋英和女学院小学部母の会 神戸教会いずみ幼稚園 瀬戸内教会かな保育園 新潟教会壮年会 新潟教会婦人会 矯風会安中 ブルーグラス向上委員会 北光幼稚園 三津教会 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学リリースセンター 松山東雲ボランティアセンター 美唄めぐみ幼稚園 鹿児島加治屋町教会 社会福祉法人西陣会 美唄教会 三原教会 久万かトリーチャペル 桂保育園 保内教会 元江別わかば幼稚園 仁又団みどり野保育園 山梨英和中学校高等学校 日本自由基督教団姫路野里教会 日本聖書神学校同窓会 めぐみ子ども園デイサービスセンター・三愛 日本バプテスト宣教団池田リリースセンター 大阪西淀川教会 富士見高原教会 幕張教会有志 早稻田教会婦人会有志 水沢教会 宿河原教会 紀伊岩出伝道所 甘楽幼稚園 滝川二の坂伝道所 甘楽教会 西片町教会 熱田教会 中野桃園教会 防府教会 高槻南平台教会 阿倍野教会 宇部教会 水戸教会 倉吉教会附属めぐみ保育園 津本教会 東神戸教会 岩手リリースセンター認定こども園ひかりの子 伏見教会 宇部緑橋教会 岩国東教会 矢吹教会 久米田教会 四街道教会 小田原教会 東神戸教会 CS 代田教会 甲子園教会 松山教会 十日町教会 神戸北教会子どもの教会 岡山教会 障がいを負う人々・子どもたちと「共に歩む」ネットワーク 幕張教会 高石教会 桑名教会 神戸Aブロック女性会 豊岡教会 いすみ教会 いすみ愛泉教会子どもの教会 札幌北光教会 国分教会 桜美林教会 東京YWCA 千葉ルーム 安中教会 真駒内教会教会学校 西千葉教会 武蔵野扶桑教会 認定こども園紫野幼稚園 相模翠ヶ丘幼稚園 神戸栄光教会社会委員会 神戸教会 台湾国際日語教会教会学校 日本聖公会東京教区聖マガレット教会 鎌倉恩寵教会 五所川原教会 中予分区教会婦人会連合 天満教会 刈谷教会 恵泉文学園大学リリースセンター 石橋教会婦人会 二宮教会 宮古教会 柳井教会 甲府YWCA 京都上賀茂教会 富里教会 愛隣教会 会津地区 大牟田正山町教会 横浜英和学院 長崎銀屋町教会 岩国めぐみ幼稚園 凤教会 高の原教会 紫野教会教会学校 多度津教会 名古屋YWCA 横浜港南台教会 関西学院宗教活動委員会 島原教会 尼崎教会 千葉教会婦人会 今治教会 松山城南高等学校 水口子どもの教会 紫野教会 甲東教会 花巻教会 横浜共立学園 松本教会 田園調布教会 西大和教会 同志社教会 津久見教会 北海道リリースセンター 佐敷教会教会学校 千里聖愛教会 鶴川リリースセンター 溝ノ口教会 農村伝道神学校 城崎教会 新潟教会 京葉中部教会 主恩教会女性会 No Nukes Goods Projects 京都西田町教会 甘楽教会教会学校 平安教会 旭川星光教会 旭川市内リリースセンター 連合 大分教会 新生釜石教会 奥中山教会 翠ヶ丘教会 広島流川教会 靈南坂教会 神戸教会「放射能から子どものいのちを守る募金」交野教会 名古屋中央教会 扇町教会 吾妻教会 河内松原教会 横浜二ツ橋協会 東広島教会 経堂緑岡教会 長崎飽之浦教会 島松伝道所 岡崎教会こども会 草津教会 溝ノ口教会こそだての会 美唄教会昼食会計 喜界教会 全国教会婦人会連合 核問題連絡会 刈谷教会 CS 東神戸教会野の花の会 花巻教会婦人会 久万教会 福島の子ども支援プロジェクト虹の橋募金 藤沢大庭教会 千歳栄光教会 広島リリースセンター 信徒会 フィーリー記念室委員会 AMC・AJC・ACC 市川三本松教会 甲東教会エリコの会

■支援品

山梨英和大学チャペルセンター 東洋英和女学院小学校 四国教区 中村純子 山口和枝 太平子どもの家 早稻田教会婦人会 松山城南高校 坂本恭子 千歳栄光教会

■諸団体の署名にご協力くださいましたみなさまに感謝いたします。

～編集後記～ 曰増しに濃さを増す新緑。水面がきらめき、早苗がそよぐ田んぼ。会津盆地がきらめく季節を愛しています。（と）